

議長定例記者会見 会見録

日時：平成 22 年 6 月 1 日 13 時 30 分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- ・発表項目なし

（議長）どうもお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。6月の定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。今回は特に報告事項等はありませんので、2年目に入った議長としての感想といえますか、今まで1年間いろいろお付き合いをいただいた御礼をまず申し上げて、この2年目またひとつよろしくということからスタートさせていただきたいと思っております。私、1年目ちょうど時代が大きく変わっていく時に議長にならせていただき、また幸運にも全国都道府県議会議長会の副会長という役をいただきまして、全国的にも三重県議会からの発信というようなことも少しはできたかなと思っております。2年目も引き続き、こういうポジションで大いに発言もさせていただき、また議長マニフェスト等、まだ未達成の部分もございますので、こういうところも皆さん方のご理解を得ながら一步一步進んでいきたいと思っております。なんとか皆さん方のお力を賜りまして、2年目を全うしたいと思っておりますのでよろしくお願いを申し上げたいと思います。では取り立ててのご報告等もありませんので、皆さん方からのご質問等お受けをさせていただいて、答えさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 質疑応答

（質問）議長2年目ということで、就任当初、議長マニフェストというのを出されたわけですけど、この2年目で特に取り組みたい、それはどういうものでしょうか。

（議長）県議会の方でいろいろご議論いただきご理解をいただいて、例の議決条例、この中に戦略計画を議決対象として入れていただきました。いよいよこれから第二次の戦略計画の総括をさせていただいて、執行部の方も当然されるわけで、それと同時に並行で私どももさせていただき、三次の戦略計画に向けて是非こういうものにしていただきたいという要望を議会の方でまとめさせていただき、できれば年末くらいを目途に提言ができればと思っております。これがこれからの一番大きなことになってくるのかなと思っております。

(質問) 他マニフェストで残っているようなものは。

(議長) 例えば議会予算についてもう少し主導的にできないかとか、それから、今までたくさんの方々三重県にお越しいただきました。学者の方ですとか、他の議会の方ですとか、こういうものはやはり私どもとしては非常に大きな宝ですから、こういう方をなんとかネットワーク化して三重県の今後の議会改革に結びつけられればと思っております、一部議会改革諮問会議という形で前進はしてきておりますが、もっと幅広い多くの方々のネットワーク化というものも今後の課題には残っていると思います。

(質問) これ今具体的には特にこういうふうにとというのは、今の時点ではありませんか。

(議長) 例えば戦略計画についての議論をどこですのか。特別委員会はもう決まりましたので、既存の常任委員会でしていただくのか、それとも別途プロジェクトのような検討会を立ち上げるのか、これはこれから議会の皆さん方とよくご相談させていただいて決めさせていただきたいと思っております。

(質問) 県立病院改革ですけど、志摩もまたああいうふうに内科医が減るということで、さらにスピードアップしなければいけないと思うのですが、今後の議会の対応としては、特定地方独立行政法人の件を執行部と一緒に行かれたりしましたけども、今後そういう取り組みについてどういう対応をされるのでしょうか。

(議長) 志摩の指定管理者の募集要件等につきましては、この6月7日の全員協議会で執行部の方からご説明があり、そこで当面のスケジュール等も明らかになってまいります。できるだけ前倒しでということは私どもも考えておりますし、地元の方からもそのご要望もあります。執行部の方もその声は受け止めていただいておりますというふうに理解しております。ただ、技術的にとか、いろいろな面で一気に前倒しというのはなかなか難しいようですが、できるだけ早く指定管理者、実現するようにしていきたいと思っております。それから、四日市の総合医療センターの特定地方独立行政法人のことですが、先だって知事と一緒に総務大臣のところにお邪魔をし、よくお願いをしてまいりました。今事務的に積み上げているという段階だと思っております、やはりいくつか乗り越えていかなければいけない壁もあると思っておりますが、最後は我々の地方の判断、地方の声というものを優先してお考えをいただけるのではないかと期待をいたしております。

(質問) 口蹄疫の関係ですが、各会派がそれぞれ執行部に要望等をされているみたいですが、県議会として全体の対応は何かお考えでしょうか。

(議長) 今のところ、各会派の方から知事の方に要望を出していただいておりますし、私の方には農協中央会、町村会等々から口蹄疫に関してのご要望をいただいております。今日も私どもの副議長森本さんが、全国都道府県議会議長会からの口蹄疫の要望に行ってもらっておりまして、今日は総務省、農水省、それから民主党、自民党の各政党、こちらの方にも出向いて行っていただいております。これは単に三重県だけの問題ではなしに、全国の課題となっておりますので、特別措置法ができたとはいえ、措置法というのは症状が発症してからの対応が書かれておるわけですので、発症する以前の要望も含めて、そういうところも万全にしていだけるように全国議長会からも要望をさせていただいているということでございます。その中で三重県議会としても考えていきたいと思っております。

(質問) 県議会から県の取り組みが遅いみたいな意見がでていたこともありました。一連の県の動きをみてどう思われますか。

(議長) 遅いと思っております。代表者会議でも話をさせていただきましたが、県の対策会議が立ち上がったのが5月の連休の前です。一回目の会議が5月21日、補正予算が6月7日に出てきます。先議の先議ということで、大急ぎで当然させてはいただくのですが、全体としての取り組みは非常に遅いと言わざるを得ないと思っております。県議会は今会期中なんですね、第一回定例会中なんです。ですから、適宜適切に一番いい時期に議案として補正予算を出していただければ県議会としてはいつでも対応できる体制にあるわけですので、何も6月7日の、6月会議の冒頭にもってくる理由は何もありません。もっと早くに出していただければ、そのように議会としては対応させていただくということです。既に県が対応する以前に、市町の方で先行、消毒等をされている事例もあり、どちらかという県の重い腰が市町などの声に押されて上がってきた、腰が上がった、そんな印象すら受ける感じがしております。やはり県の対応が遅かったんではないかとそういう思いがします。ただ、いたずらに不安をあおったり、危機をあおって、風評被害等の問題もありますから、そのあたりのところの慎重さは当然必要ですが、やはりこういうときはスピード感というものが一番県民に安心を与える要因になりますから、その意味では、今回少し県の対応は遅かったのではないかと感じております。

(質問) 県の対応の遅さについてなんですけれども、具体的に消石灰の部分が、消石灰の無償配布を決めたというのが遅いということなのか、それとも装備、防護服などの備蓄の備えをするというふうなのを全体として決めたのが遅いという、どの部分についてなのでしょう。

(議長) 全体の流れとして僕は遅かったと思います。現実には県内でそういう症状等も出ておりませんので、消石灰の散布が遅かったという理屈にはなかなかならないかも知れませんが、こういうものにすぐに反応を示して的確な対応をしていくということが農家に対しても、また消費者の方に対しても安心感を与えるということですから、全体の対応そのものが遅かった、そういうふうに理解をしています。

(質問) 県対応ですけど、もともと昨日の知事会見で当初1億5千万円、実際1億2千万円という形で上げてくるという話なんですけど、その辺の金額とか含めてですね、そういうのはどういうふうな。

(議長) 金額はある意味で妥当かな、と思っています。1億2千万円でトータルで約3回、農場などを消毒するという予定で、当面2回分ということで対応しているということです。一度に大量に買っても備蓄等もできませんから、使えるところから順次使っていくということになると思いますので、金額的にはそう悪いものではないのかなと思っていますが、ただやはり同じ1億2千万円を計上するにしても、もっと早くにやっておれば、それだけ県のメッセージというものが農家だとか県民に伝わったのではないのかなと思います。

(質問) 議長に例えば議会を再開してくださいというふうな、会議をですね、そういうお話はこの間はなかった。

(議長) ありませんでした。役選をしていたというところもありますけれども、これはこれで関係のない話だと思いますので。

(質問) 関係団体、まあ畜産団体とかそういうところからは県対応が遅いんじゃないかみたいな話はあるんですか。

(議長) 直接私のところには言ってきておりませんが、間接的にいろいろ聞こえてくる話の中にはやはり遅いというご不満があるようです。

(質問) 執行部の方の機構等を含めてどこに問題があるとお考えですか。

(議長) 全体の感性というかアンテナの鈍さと鋭さの話じゃないかと思いますね。こういう時に敏感に反応するのか、それとももう少し様子を見ようとか理屈は後からいくらでもつきますので、あまり県がバタバタすると風評被害が起きるとか、いたずらに不安をあおるとか理屈は後からどんどんつきますが、やはりこういう時に敏速な対応、スピード感のある対応というのが一番の有効なメッセージだと思っていますから、その意味では県の対応は少し遅かったのではなかったのかなと思います。

(質問) 全般には県内各地の地域情報というのが県本庁に上がりにくくなって、議員の方はそれぞれ選挙区から出られているので、それなりの情報は得ておられると思いますけど、執行部は割とそういう情報というのは疎い部分がありますよね。基本的にその問題点というのは、地域機関をある程度無くして出張所扱いしてしまっているということも町村会等から上がっているんですけど、その辺についてはどうお考えですか。

(議長) まだそこまで深く考えてはおりませんが、もしそういうことがある程度事実というふうな各議員の皆さん方の認識があるようなら、県の機構のことも含めて、一度議会の方で議論させていただきたいと思います。

(質問) 社民党の連立離脱について率直な感想を。

(議長) 非常に残念だなという思いはします。私も民主党の党員の一人ですので、連立三党で政権が維持されておりましたので、その一角が崩れるということは非常に残念な思いがしております。ただ、安全保障政策という国の根幹に関わる問題での見解の相違ですから、罷免、離脱というのはある意味ではやむを得なかったのかなと思います。

(質問) 民主党の参院選への影響とかいうのは何か感じられるものはありますか。

(議長) まああるんでしょうね。ないとは絶対に言えないとは思いますが、民主党にとって決してプラスに働くという話ではないと思っています。ただ、じゃ実態はどれだけあるのかとこう言われると、なかなかわかりにくいところです。ただ、全体として選挙に対するしらせ感といいますか、政治に対するしらせ感が非常に多くなってきている感じがしております。今のまま参議院選挙の投票日を迎えるとかかなり投票率が下がるのではないかと、どこにも私の票を

入れるところがないという意味で投票に行かない人が増えるのではないかなと
こういう心配をいたしています。

(質問) しらけ感の要因というのは。

(議長) やはり新しい政権が国民の期待にきちんと応えていないというところ、
それから旧の政権がやはり国民の信頼を取り戻していない、それから新党がそ
れだけの魅力のあるものではない、そういうところから選挙に対するしらけ感
が出ているのではないかなと思います。

(質問) 内閣の支持率も低下しているということですが、この原因といえます
か。

(議長) なんか、朝日新聞の方からそういう趣旨のアンケートが回っておった
というふうに聞いておりまして、昨日夕方電話がかかってきましたが、もうそ
ういうものには答えるなというふうに言うておいたんですけど、それはそれ
で別の話としまして、内閣支持率の低下は当然のことながら、政治と金の話よ
りも今回の普天間の混迷、こちらの方が大きいのではないかなと思います。い
ろいろなことがあると思いますが、総理の指導力といえますか、リーダーシッ
プがなかなか見えないとか、いろんなご批判は当然出てくるわけでそれが支持
率の低下につながっていると思います。ただ、今回のさまざまな一連の動きの
中で、やっぱり沖縄の問題というのが、今までの沖縄の、単に沖縄のローカル
な課題ではなしに、これは全国民の等しく受け止めなければいけない課題であ
るという、そういう認識が国民の方々に広がったというはある意味ではプラ
スではないかと思っております。我々も沖縄の問題として片付けるのではなし
に、やはり自分自身の問題の一つだというふうにとらえて真剣に考えていか
なければいけない課題だと思っております。

(質問) ちょっと詭弁的な感じに聞こえますけれど。

(議長) そんなことはないです。そんなことはないですよ。国土の0.6%の
ところに75%の米軍基地が行っておりまして、沖縄の方々の負担というのは
大変なものなんです。それで、その沖縄の海兵隊等の抑止力で我々の安全が保
障されているということが、もしそれが前提であるとすれば、やはり我々もそ
の負担に対してしっかりと受け止めるという覚悟は持たないかんとします。

(質問) 翻って昨日の知事会見で似たようなことをお聞きして、知事は臨時の

27日の全国知事会の方で話されて、なおかつ総論的には皆で共有したと、どこかで沖縄の負担を解消だと。ただし各論において、どこが負担を受け入れるという話が出ていない。昨日、麻生会長が、先に手を挙げた大阪府が先に先行すべきという話はされていますが、三重県においては、知事は昨日、三重県としては米軍を受け入れる状況にはないというふうにおっしゃった。そういうことから言えば、三重県議会議長としてそこまでおっしゃるならば、ある程度議会として後押しして、米軍の一部を受け入れるとかそういう考えはあるのですか。

(議長) 大阪の橋下知事とはいろんなことで意見が違いますけれども、先の知事会での橋下さんの発言というのは、僕はあれは正しいと思っています。うちの野呂知事が、新聞の断片的な報道ですから全体の脈絡は分かりませんから、一概には言えませんけれども、協力というのは書き過ぎであって、真摯に対応するということがいいのだというような発言をされたというふうな一部報道がございますが、もしそれが事実とすれば、少し違うのではないかなと思います。協力はやはり基本的にはすべきであって、ただどういう協力ができるかということについては、やはり議論をしていかなければいけないですし、県民の皆さん方のご理解も得なければいけないと思いますが、あれだけ沖縄に大きな負担を押し付けておいて、安全だけ我々は享受するということであってはいけませんから、やはり協力ができる範囲で協力をするという基本的な姿勢というものは、やはり我々は堅持しなければいけないのではないかなと思います。

(質問) 協力できる議長の考えられる範囲、中身は何ですか。

(議長) それは具体的に国の方からこういうことで協力していただけませんかというお話があったときに、それが実態どの程度、どういう具合にできるのかということは、そこで初めて議論が始まりますけれども、最初から協力をするということすら拒否するということであってはいけません。

(質問) ということは、国の提言待ちということにおいては、知事が、野呂知事が言われていることとある程度一緒なんですか。

(議長) だから国のほうも鳩山さんが協力していただけたところは手を挙げてくださいというのは、そういう発言は僕はいかなものかだと思いますから、国の安全保障というのは、基本的には国の一番大事な骨格部分ですから、それに関してはやはり国の方から提示するというのが筋だと思います。

(質問) 米軍基地は抑止力になっていると思っっているんですか。

(議長) 米軍基地は、抑止力にはある程度なっているんだと思いますが、海兵隊が抑止力になっているのかどうかは個人的には非常に疑問に思っています。海兵隊の海外に展開されている部隊の99%は沖縄にいますよね。もし海兵隊が抑止力の中核であるということならば、ヨーロッパにもいなければいけないし、南アジアにもいなきゃいけない。日本の沖縄に99%いるというその理由というのがもう一つよくわからない。一説によれば、日本の思いやり予算が海兵隊の駐留経費の70%を担っているんで非常に居心地がいいからあそこにいるんだと、ドイツなんかは30%しかみてくれないからドイツにはいかないんだという話もありますので、しかも12,000人の海兵隊のうち2006年のロードマップによれば、2014年に8,000人グアムに移転する。その8,000人の中には普天間の部隊も全部入っているんですよね。そういう部隊が全部グアムに移転してもなおかつ海兵隊が抑止力として沖縄に必要なという議論はなかなか成り立たない部分があるんじゃないかと、こう思っております。そういうことも私ども全国都道府県議会議長会の中で、沖縄の議長さんが座長になった勉強会と言いますかワーキンググループで、いろいろ勉強もさせていただいているところです。

(質問) この普天間飛行場の問題で、今日の大臣の・・・・

(議長) まあ声が出てきても、ある意味ではやむを得ないかなと思います。特に改選を控えている参議院の候補者にとっては、改選前に立候補を予定されている人にとっては、やはり内閣の支持率なり党の支持率というのが自分たちの票にも直結してくる話ですから、それは相当皆さん真剣にこの問題については、お考えいただいているというのは当然の話だと思います。

(質問) 議長はそれはどうお考えですか。

(議長) 私の立場でこれをコメントすることは、ちょっとできないと思いますけれども、何らかの意味でやっぱり政局の転換というのは必要ではないかなと思います。

(質問) その件で一つちょっと抗議させていただきたいんですけども。こういったアンケートをしているかという内容については、こうした公式の場でおっしゃっていただくということについて、少し新聞社として抗議させていた

だきたいんですけれども、それとは別に今の質問に関連して、もし例えば何らかの政局の転換が必要だとするのなら、具体的に例えば、もう少し具体的に転換とはどういう内容になりますか。

(議長)それは当然、参議院選挙の前に何らかの動きがあるんだろうと思っていますし、それがどういうふうになるかというのは、私の方から今どうこう言えるものではないと思います。

(質問)鳩山政権、連立の最後、辺野古で打ち出されたあの方針については、どう評価されていますか。

(議長)いろいろ国外、県外を模索された結果、最後あそこに行き着いたということについては、いろいろご批判もあると思いますが、それなりのご努力も一方ではあったのではないかなと思っています。やはり沖縄の方々の多くの声が、もう沖縄には基地は要らないということのようですし、今、日本の国内の自分のところに持ってくるのは反対だという声が圧倒的ということになれば、その中で日本の安全保障というのは米軍との関係の中でどう考えていくのかということは、やっぱりもう一度しっかり考え直す必要があるのではないかなと思います。

(質問)議長の立ち位置としては、米軍が国内から居なくなった場合というのは、それはそれで、しかし抑止力は十分、東南アジアにおける安全保障は大丈夫だというふうにお考えですか。

(議長)あんまり僕が議長という立場で物を言うことは、個人的には言えますけれども、県議会議長の立場でそこまでのことはちょっと踏み込んでなかなか言えないですね。個人的な考えを言えというのであれば言えますけれども。

(質問)個人として。

(議長)個人としては、海兵隊の存在というのは、僕はそんなに抑止力としては重くないと思うんです。やはり、日本の安全保障にとっての米軍の関係の抑止力の最大のものは第7艦隊だと思っております。横須賀等を基地としているこの第7艦隊のプレゼンスというのが一番大きいでしょうし、このアジア、太平洋地域においては圧倒的なものだと思っておりますから、これは本当に抑止力としての評価としてはできると思いますが、軽装備の海兵隊が抑止力になるとはとても思えないです。

(質問)先ほど、選挙に対するしらけ感が大きいという話で、投票率が下がるのではないかという危機感みたいなものをおっしゃられたのですけれども、投票率が下がれば、逆に投票率が上がれば、浮動票が増えて民主党にとって良くない流れになるのではないかと思うのですが、その辺は率直にどうですか。

(議長)民主党が勝とうと、自民党が勝とうと、みんなの党が躍進しようと、議長の立場でコメントすべき話では当然ないわけですがけれども、まあ、できるだけ、選挙ですから、基本的に大勢の方々が参加していただくというのは、基本だと思っています。いろんな、さまざまな理由があるにしても、やはり投票率が下がるということは議会制民主主義にとっても決して良いことではありませんから、是非多くの県民の皆様方が投票に行ってくださいということをお願いしたいと思います。

(質問)あと、総理大臣とかですね、トップを次々こう据えかえない方が良いという意見もありますけれども、そういう先ほど議長が私も民主党員ですがと言われましたけれども、その辺は、こう次々替わることについてはどうですか。

(議長)それは、替わらないに越したことはないですよ。前の自民党の時に次々と替わって、安倍さん、福田さん、麻生さんとか替わって行って、しかも、それが国民の信任を得ないまま政権が選挙のためだけで、表紙が変わっていくというようなことが大変批判を受けたというのは事実ですから、同じ轍を民主党に踏んでもらいたくはないと思っておりますけれども、事がここまで大きな話になっておりますと、そういう理屈がきちんと通るかどうか、これはなかなか難しいところもあるのではないかと思います。

(質問)それに関連してなんですけれども、もし、例えば、こういった退陣というか、流れになった場合、後継の首相としてふさわしいと思われる人物はどんな人物ですか。

(議長)全く検討がつかないですね。人材はたくさん、民主党の中にもおられますので、もし、そういうことになれば、党の中で一番適切な人を選ばれるのではないかと思います。

(質問)その適切な方とは、地方の県議会を担われる立場としてどういう方だと思いますか。

(議長) 誰の名前を言わそうかというのがよくわかるんですが、私の立場でどなたが後継者として適切であるかというようなコメントは差し控えさせていただきます。

(質問) お名前じゃなくとも、例えば、こういう方とか。

(議長) こういう方。あのコンタクトしている人とか、そういう意味で。

(質問) 例えば、こういうところに期待したいとか。地域主権だったりとか。

(議長) いずれにしても、もしそういうことになれば、党の中でしかるべき機関決定を経て選ばれると思いますから、党員の一人としては選ばれた方を代表として承認するということになるんだろうと思います。

(質問) あと、新政みえ結成10周年で南の方で会合等をもたれて、議長の講演中心で会合があったという話なんですけれど、改めて10年を振り返って、今後のことを含めてですね、何かご感想はありますか。

(議長) やはり10年前に、ちょうど2000年に結成をさせていただいて、その前に「スタート99」というのを若手だけで作らせていただいたんです。県民連合と県政会の若手で「スタート99」というのを作りまして、この活動がこの2つの会派の合同につながり、2000年5月の新政みえの結成につながってきたと思います。

やはり、いろんな要因はありますが、新政みえという新しい政治手段が県議会の中で誕生したということで、その後の三重県の政治の流れというものがある一定、引っ張っていったということにもつながってくるのではないかなと思います。衆議院選挙、参議院選挙、それから各地区での市長選挙、我々新政みえからの代表と、OBという者がそちらの方にも出て行っておりまして、三重県の政治の流れの中で新政みえというのはその意味では大きな役割を果たしてきたとこういうふうに評価をしております。

(質問) 鈴鹿の児童虐待の件で、県がいろんな検証委員会を開いて、1回目終わって、次は2回目ですけれども、議会として何かそれについて。

(議長) ちょうど今、例の条例の検証検討会をやっておりまして、子どもを虐待から守る条例の今検証をさせていただいております。少なくとも、条例があったにも関わらず、ああいう事件が起きたと、防ぎ得なかったという意味では、

大きな反省点だと思っております、条例を改正していくのか、それとも、また、別の手当を考えなければいけないのか。また、国の方の法改正をしなければいけないのか、そういうところも併せて検証していただいておりますが、検証会で犯人捜しをするのが目的ではありませんから、ああいうのが再び起きないような環境づくりというか、条件づくりを今考えていただいているということで、近々、また、検討会の方からもご報告があると思っております。

(質問) 話が変わるんですけれども、行政刷新会議の事業仕分けの方で、宝くじ関連事業の多くが廃止と判定されてまして、宝くじの収入というのが地方の財源の一部になっているということですのでけれども、このことに関して議長として何か思いはありますでしょうか。

(議長) 宝くじの補助金で私の地元でも2つばかり集会所が建っておりますので、そういう意味では宝くじのお金も地域ではいろいろお世話になっておるといことは間違いがないと思います。

ただやはりそこに、天下りだとか、無駄だとかそういうものがあるということならば、そういうところはしっかりと見直していただくということになると思います。宝くじそのものが廃止になるというふうには聞いておりませんので、そういうものがきちんと直るまで一時宝くじの発行を中断したらどうかというようなお話が出ていたようですが、宝くじそのものの廃止にはつながらないと思いますし、より一層無駄とかそういうものをなくして、宝くじの収益というものが地域に回る、地方に回るということは我々としては歓迎していかねばならないと思います。

(以 上) 14:05 終了